



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年10月21日

上場取引所 東

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

コード番号 2268 URL <http://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 裕明

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部 経営管理部長 (氏名) 肥沼 邦幸

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 平成28年11月4日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の業績(平成28年1月1日～平成28年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	14,934	6.0	351	—	385	—	90	—
27年12月期第3四半期	14,085	△1.5	△126	—	△108	—	△105	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	9.44	—
27年12月期第3四半期	△10.96	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第3四半期	18,077	9,460	52.3
27年12月期	17,983	9,762	54.3

(参考)自己資本 28年12月期第3四半期 9,460百万円 27年12月期 9,762百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	40.00	—	20.00	60.00
28年12月期	—	20.00	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,900	1.8	370	—	360	—	87	—	9.03

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年12月期3Q	9,644,554 株	27年12月期	9,644,554 株
28年12月期3Q	8,561 株	27年12月期	8,561 株
28年12月期3Q	9,635,993 株	27年12月期3Q	9,635,993 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(平成28年1月～9月)における我が国経済は、政府による経済施策や日銀による金融緩和策により企業業績や雇用情勢に改善傾向が見られましたが、中国経済の急激な景気減速に伴う原油安や、見送られた平成29年4月の消費税増税に対する不安感、英国のEU離脱による世界同時株安、急激な円高など景気の先行きに不透明感が見られる状況となっております。外食業界ではインバウンド消費が好調である反面、個人消費の伸び悩みや中食の増加など業態を超えた競争が激化しております。

このような環境の下、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーである“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて、皆様に幸せをお届けします。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN(楽しいこと、嬉しいこと、感動すること)”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

また、当期は安定的黒字体質を早急に取り戻すべく、核となるフランチャイズ・ビジネスの更なる強化と、事業領域拡大に向けた新しい活動を既に始めており、事業基盤の再構築に向け本格的な取り組みを全力で進めてまいります。

当期のマーケティング戦略のテーマは「Back to Basics(原点回帰)」です。サーティワン・ブランドが最も勢いに乗っていた2000年代の原点にもう一度立ち戻り、フレーバーやキャンペーン、ターゲットなどを見直し、更に進化させてまいります。その施策としては、最盛期の6月から8月にかけて大型のバリュー・プロモーションを実施すると同時に、コミュニケーション・ターゲットを情報発信力の強い女子中高生に戻し、TVCMやSNSのメディアを活用し、しっかりと告知して確実に売上を向上させてまいります。他にも「イースター」や「ハロウィン」「クリスマス」など魅力的なキャンペーンの実施や新しい商品の発売により、さらに売上の向上を図ります。

また、当期は特にフレーバーにフォーカスし、1月のフレーバー・オブ・ザ・マンズとして新登場の3種類のバニラが1度に味わえる“バニ バニ バニラ”、3月に24年ぶり復活の新“さくら”、ゴールデンウィークには人気No.1の“ポッピングシャワー”のポップロックキャンディを2倍に増量した“ポッピングシャワー☆パチキャンMAX”など、新鮮な驚きと美味しさが話題となりました。

営業面では、1月はアイスクリームの詰め合せ商品であるバラエティパック、ギフトボックスをお買い上げのお客様に、‘スヌーピー’ハッピープレートをプレゼントするニューイヤープロモーション(1月1日～1月11日)を実施し、フレーバーのバラエティさ・楽しさを訴え、高単価商品の拡販とヘビーユーザーの再来店を促進いたしました。また、ハッピードールには、当期の干支に因んだお正月限定の“さる”(12月26日～1月11日)を登場させ、イトイン商品強化による新規顧客の獲得を図りました。

そして冬の第2弾、心温まるプロモーション「スウィートハートウォーミング」(1月15日～3月14日)を実施し幅広い顧客層の購買意欲を高めました。この期間、新フレーバーの“ストロベリーガナッシュ”に加え“チョコレートムースロイヤル”“キャラメルフロマージュ”など、この季節にぴったりの甘くてとろけるような5種類を取り揃えるとともに、期間限定で初の温かい商品“ホット サーティワン ドルチェ”として“フォンダンショコラ”と“メープルストロベリーパンケーキ”の2種類を発売し、新しいアイスクリームの食べ方を提案いたしました。さらに、テイクアウト商品としてバラエティパックやハンドパックも訴求いたしました。

また、苺の美味しさをたっぷり味わえる“フレッシュストロベリーサンデー”(12月26日～3月14日)を販売し、アイスクリーム専門店ならではのシーズンサンデーを提供しブランドの差別化を図りました。

これと並行して実施した「ひなまつりセール」(2月15日～3月3日)では、オケーション商戦の売上を確保するため期間限定商品“ひなだんかざり”を販売いたしました。さらに、ひなまつり当日は、ピンク色を身に着けて来店され、コーン・カップ商品を購入されたお客様全員にポップスクープ1個プレゼントする「ピンクデー」を実施いたしました。

3月15日からは、6年目を迎える「ワンダフルイースター」フェア(3月15日～4月20日)を実施いたしました。この期間はイースターらしいタマゴをモチーフにした“イースターハッピードール”に“イースターダブルサンデー”、持帰り商品として“イースターバラエティBOX”、イースターに因んだフレーバーとして“スプリングバスケット”、“ヨーグピーチファン”の2種類を販売いたしました。また、300円お買い上げごとにスクラッチカードを1枚進呈し、アタリがでたらレジャーシートやランチマット、ゆらゆらふせんをプレゼントして、店内を盛り上げました。

ゴールデンウィーク期間中（4月22日～5月8日）は恒例のキャンペーン「ダブルコーン・ダブルカップ31%OFF」を実施し、同時に新発売した“ポッピングシャワー☆パチキャンMAX”とともにTVCMで告知して、ヘビーユーザーや新しい顧客へ周知し来店促進を図りました。

また、5月9日のアイスクリームの日（日本アイスクリーム協会制定）には、日頃のご愛顧に応えると共にアイスクリームのトップシーズンに向けサーティワンの美味しさと楽しさを喚起し来店を促進するため、レギュラーシングルコーンを100円で提供する「お客様感謝デー」を初めて実施いたしました。

さらに、3種類のフレーバーが楽しめるトリプルポップをお買上のお客様全員に、女子中高生に人気のオリジナル・マスキングテープをプレゼント（5月10日～5月29日）いたしました。

最盛期の6月からは大好評の「チャレンジ・ザ・トリプル」（6月1日～7月20日）を実施し、TVCMや会員サイト「31cLub」、LINE、Facebook、TwitterなどのSNSも活用して告知を強化するとともに、スマホ上で体験できるオリジナルのゲームアプリ「アイスクリームけん玉」を開発し、ゲームをクリアしたユーザーの中から抽選で310名様にレギュラーシングルコーン無料券31枚セットをプレゼントしてキャンペーン拡散の最大化を図りました。

「チャレンジ・ザ・トリプル」に続き、3年振りに復活した「真夏の雪だるま大作戦！」（7月21日～8月30日）を実施し、TVCMやSNSを使った広告を実施しました。キャンペーン商品お買上げのお客様に、顔などを書き入れお楽しみいただけるよう、お絵かきチョコソースをプレゼントし店頭を賑わせ、SNSでも話題になりました。

9月には昨年好評でした「‘TSUM TSUM’トリプルポップ第二弾」（9月1日～9月21日）を実施し、人気のディズニー・キャラクターを使った限定カップ3種類のトリプルポップとともに、オリジナルの保冷バッグセットも販売しました。

9月22日から25日の4日間は、恒例のキャンペーン「ダブルコーン・ダブルカップ31%OFF」を実施し、集客を図りました。

戦略商品のアイスクリームケーキでは、人気の“パレット4”を4月22日にリニューアルし、6月20日に新商品2品、7月に2品、8月に2品と計6種類のアイスクリームケーキを新登場させて、より魅力的なラインナップといたしました。

店舗の出店及び改装の状況といたしましては、平成26年から新しい店舗デザイン「Happy1.0」を導入し、店舗イメージ刷新を図っております。新しい店舗は当期21店開設し、当第3四半期末の店舗数は1,171店舗となりました。改装は当期40店実施し、既存店へも新しい店舗デザインの導入促進をいたしました。

以上の結果、売上高は、149億34百万円（前年同期比6.0%増）と前年同期を上回る結果となりました。

売上原価は、売上の増加に伴うものと神戸三木工場の稼働に伴う製造経費の増加等により、76億2百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

販売費及び一般管理費は、69億81百万円（前年同期比3.0%減）となりました。これは主に、マーケティング・プランの違いによる広告宣伝費の減少（1億9百万円）、前年同期に行った店舗ユニフォームのリニューアル費用が発生しなかったこと等による店舗対策費の減少（75百万円）、配送の効率化による物流費の減少（19百万円）によるものであります。

その結果、営業利益は3億51百万円（前年同期は営業損失1億26百万円）、経常利益は3億85百万円（前年同期は経常損失1億8百万円）、四半期純利益は90百万円（前年同期は四半期純損失1億5百万円）となりました。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ93百万円増加の180億77百万円となりました。これは主に、現金及び預金が増加したことによります。

負債は前事業年度末に比べ3億95百万円増加の86億16百万円となりました。これは、ショッピングセンター内店舗の売上金が当社を経由して加盟店に支払われるため、一時的に預り金が増加したことによるものです。

純資産は前事業年度末に比べ3億2百万円減少の94億60百万円となりました。これは主に、剰余金の配当額が四半期純利益を上回ったことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月4日に公表いたしました「平成27年12月期 決算短信(非連結)」の業績予想より変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,470,577	2,247,868
売掛金	3,211,219	2,860,571
製品	884,941	853,379
原材料	658,531	486,117
貯蔵品	253,158	261,959
前渡金	128,595	131,815
前払費用	197,489	182,173
繰延税金資産	87,014	89,626
未収入金	106,396	72,888
未収還付法人税等	82,836	-
その他	53,345	50,874
貸倒引当金	△239	△164
流動資産合計	7,133,864	7,237,110
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,830,933	3,851,457
減価償却累計額	△1,337,819	△1,429,322
建物(純額)	2,493,113	2,422,134
構築物	433,754	433,754
減価償却累計額	△157,965	△172,043
構築物(純額)	275,789	261,711
機械及び装置	3,626,560	3,740,407
減価償却累計額	△1,908,169	△2,048,265
機械及び装置(純額)	1,718,391	1,692,142
賃貸店舗用設備	3,708,732	3,765,243
減価償却累計額	△1,968,176	△2,012,111
賃貸店舗用設備(純額)	1,740,555	1,753,132
直営店舗用設備	429,646	318,304
減価償却累計額	△213,662	△173,198
直営店舗用設備(純額)	215,983	145,106
車両運搬具	80,685	78,501
減価償却累計額	△51,063	△56,996
車両運搬具(純額)	29,622	21,504
工具、器具及び備品	830,677	857,335
減価償却累計額	△647,127	△685,034
工具、器具及び備品(純額)	183,549	172,301
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	1,663	18,535
有形固定資産合計	7,354,031	7,181,932
無形固定資産		
ソフトウェア	172,328	244,580
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	189,394	261,646

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	46,607	45,008
長期貸付金	1,455	820
従業員に対する長期貸付金	6,193	5,443
破産更生債権等	129,377	164,101
長期前払費用	523,129	429,594
繰延税金資産	17,010	18,257
敷金及び保証金	2,592,607	2,741,620
その他	19,685	19,685
貸倒引当金	△30,073	△28,095
投資その他の資産合計	3,305,993	3,396,435
固定資産合計	10,849,419	10,840,013
資産合計	17,983,284	18,077,124

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	577,801	548,341
短期借入金	2,500,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	199,952	329,960
未払金	1,304,745	1,497,019
未払費用	36,288	49,164
未払法人税等	-	170,359
未払消費税等	12,069	144,914
前受金	1,124,849	1,096,015
預り金	124,896	450,788
賞与引当金	26,813	95,227
ギフト券回収損失引当金	106,443	94,266
その他	84,531	102,908
流動負債合計	6,098,389	5,578,964
固定負債		
長期借入金	600,096	1,533,452
退職給付引当金	151,875	158,301
役員退職慰労引当金	47,900	51,332
資産除去債務	82,624	72,187
長期預り保証金	1,239,608	1,222,157
固定負債合計	2,122,104	3,037,431
負債合計	8,220,494	8,616,396
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	46,860	46,860
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	4,472,980	4,178,522
利益剰余金合計	8,828,517	8,534,058
自己株式	△16,893	△16,893
株主資本合計	9,787,989	9,493,530
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,464	4,151
繰延ヘッジ損益	△31,664	△36,953
評価・換算差額等合計	△25,199	△32,802
純資産合計	9,762,790	9,460,728
負債純資産合計	17,983,284	18,077,124

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	14,085,957	14,934,525
売上原価	7,015,010	7,602,081
売上総利益	7,070,947	7,332,444
販売費及び一般管理費	7,197,858	6,981,422
営業利益又は営業損失(△)	△126,911	351,022
営業外収益		
受取利息	502	626
店舗用什器売却益	41,242	32,025
受取ロイヤリティー	11,633	16,030
その他	7,406	16,146
営業外収益合計	60,785	64,828
営業外費用		
支払利息	10,850	13,132
店舗設備除去損	15,135	16,079
製品廃棄損	16,078	-
その他	314	642
営業外費用合計	42,378	29,854
経常利益又は経常損失(△)	△108,504	385,996
特別利益		
補助金収入	76,774	-
特別利益合計	76,774	-
特別損失		
固定資産廃棄損	22,912	92,665
災害損失	-	15,930
特別損失合計	22,912	108,596
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△54,642	277,399
法人税等	50,976	186,418
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△105,619	90,980

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。